

ジェンダーフリー教育の実践研究とその普及

—— 高大連携カリキュラムの開発 ——

内田 伸子¹ 田中 京子² 荻原 万紀子² 菊池 美千世²

増田 かやの² 富山 尚子^{1*}

お茶の水女子大学では、2002年度より、附属高校と大学が連携（高大連携）して、新しいジェンダー教育カリキュラムを開発、研究することを目指したプロジェクトを発足し、新たな試みを開始している。本報告は、主に、附属高校の特設科目「国際協力とジェンダー」（2年生対象）および「ジェンダーフリーを学ぶ」（1年生対象、2003年度より）の中で実施された、大学教官と高等学校教官の連携による授業の実施状況および、授業に対する受講生の反応を検討したものである。

1. プロジェクトの目的

お茶の水女子大学附属高校では、1996年度より、特設講座の1科目として、「女性学」や「ジェンダーフリーを学ぶ」などの講座を開講し、ジェンダーフリーを目指した授業の実践および研究を行ってきた。そして、2002年度より、附属高校と大学の連携（高大連携）カリキュラムの開発プロジェクト（3年計画）として、新しいジェンダー教育カリキュラムを開発、研究することを目指す新たな試みを開始している。具体的には、以下のようなことを主要な目的とする。

- ・ジェンダー教育に関わる大学教官と連携してジェンダーフリー教育の実践研究を行う。
- ・クロスカリキュラム研究に基づく、既存の教科目におけるジェンダーフリー教育を実践する。
- ・本校の実践をもとに、他校の総合的学習の時間などに実践可能なカリキュラムの開発・教材の開発を行い、ジェンダーフリー教育の普及に資する。
- ・学問としてのジェンダー研究を中等教育に普及する。
- ・ジェンダーフリー教育により、男女共同参画社会を担う人材を育成する。
- ・国内外の教育機関と連携し、ジェンダーフリー教育を推進する。
- ・女子の能力開発プログラムを推進する。

2. 2002年度の研究活動内容

〈目的〉

2002年度から、お茶の水女子大学を含む5つの女子大学によって結成された五女子大学コンソーシアムによって、アフガニスタン女性教育支援プログラムが開始され、身近なところでの国際交流が活発化してきている。そこで、本プロジェクトでも、国際協力の視点から新しいジェンダーフリー教育カリキュラムを開発、研究することを本年度の主な目的とした。具体的には、高大連携カリキュラムの開発のために、高校2年生を対象とした特設科目「国際協力とジェンダー」の中で、大学教官と高等学校教官の連携による授業を実施し、それに対する受講生の反応や教官の反応を詳細に検討していくこととした。また、受講生自身のジェンダー意識に関する調査と、受講者の両親のジェンダー意識や子育て観についての調査を行うことで、「ジェンダー意識」の維持や変化と関連する要因についても検討した。

〈授業概要〉

2002年度の授業は、1学期12回（うち、大学教官および外部講師の授業5回）、2学期11回（うち、大学教官および外部講師の授業5回）+公開研究会（大学教官）、3学期5回+具体的な活動（本年度はユニセフ募

1 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科

2 お茶の水女子大学附属高等学校

* 現所属 東京成徳大学子ども学部

金活動)、のスケジュールで行われた(詳細は、Table 1を参照)。

〈調査内容及び結果〉

(1) 受講生のジェンダー意識についてのアンケート

4月の第1回目の授業および2月の最終日にそれぞれ、ジェンダー意識についてのアンケートを行い、以前に調査を行った同じアンケートの結果と照らし合わせて、今回の受講者のジェンダー意識の高低について確認した(具体的なアンケート結果の内容は、資料1を参照)。

(2) 大学教官および外部講師の授業についてのアンケート

大学教官および外部講師からは、事前に授業題目を提出してもらい、授業の前後には、毎回それぞれの授業についての事前および事後アンケートを実施した。事前アンケートは、「題目から、どのような内容の話だと思うか」「題目について何か知っていることがあるか」「授業で何を聞きたい(知りたい)と思うか」の3点、事後アンケートは、「授業でどのようなことがわかったか」「授業は期待通りであったか(非常に不満足～非常に満足の5段階評定)」「なぜ期待通り(はずれ)だと思ったか」の3点であった。

2002年度の受講生のアンケートの結果から、以下のような点が示唆された(具体的なアンケート結果の例は、資料2を参照)。

①授業時間の問題:「まとまりがない」「質問の時間がない」という指摘が多く見られた。大学の授業と異なり高校の授業は50分のため、大学教官側にもそれに対応できるような構成の授業が求められることを認識し、準備をする必要があると考えられた。

②授業内容の問題:大学教官の授業については、内容的に興味があっても、実際には難しく分りにくい部分が多かったという意見が多かった。一方、外部講師の授業は、「実体験が含まれていてわかりやすかった」「実際にやっている人の話は説得力がある」といった感想が多く、大学教官の授業よりも親しみを持って聞いたようであった。実際には、大学教官も、決して実体験がないわけではないのだが、それが受講生にうまく伝わらなかったのは、話の内容が広範囲でいわゆる“講義”的な内容だったせいではないだろうか。大学での授業と異なり、もう少し内容を絞って分りやすく説明する必要があると思われる。

しかし、一方では、実際に、50分でまとまりのある、

テーマを絞った内容だった大学教官の授業は、受講生の評価も高く、高校の通常の授業では得られないような知識を得られたことに、満足度も高かった。従って、そのような授業であれば、高大連携カリキュラムは大いに効果を発揮できると思われる。

③授業の形式:新たな知識を獲得し、視野を広げることができたという感想が多かった一方で、個々の授業の内容が消化しきれいていない場合も多かった。最終的に全員の受講者から「大学の先生の話がたくさん聞けて、附属高校ということの大いに利用した授業でよかった」という旨の感想が得られたことは、専門分野の異なる複数の大学教官が統一テーマで授業を行う、学際的授業の成果と考えてよいであろう。しかし、毎週、異なる分野の大学教官が授業を続けて行ったため、受講生が内容を消化しきれなかった感は否めない。今回のような学際的授業を効率よく実践するためには、例えば、授業の次の週は復習を兼ねた討論といった、2週で1つの講義内容を深め、受講生自身が考え、理解する時間が十分に持てるような形が必要ではないかと考えられる。

(3) 両親へのアンケート

2002年度は、予備調査として、受講者の両親のジェンダー意識や子育て観についてのアンケートを行い、その結果から、アンケートの項目を絞り込み、来年度の調査用紙の作成を行った。

3. 2003年度の研究活動内容

〈目的〉

2003年度は、ジェンダーフリー教育の一層の普及のために、高校2年生だけでなく、高校1年生を対象にした講座も新たに開設した。1年生では、初歩的なジェンダーフリー教育(「ジェンダーフリーを学ぶ」)、2年生では、グローバルな視点も含んだジェンダーフリー教育(「国際協力とジェンダー」)という2つの講座の実施によって、実践研究を進めた。

2002年度の結果を踏まえて、よりわかりやすく効率よく授業を進めるために、授業の内容および形式に改良を加えながら、引き続き高大連携カリキュラムの開発のために、それぞれの講座の中で、大学教官と高等学校教官の連携による授業を実施し、それに対する受講生の反応や教官の反応を詳細に検討した。さらに、2003年度は、2002年度の予備調査の結果から作成した調査用紙を用いて、受講生自身のジェンダーに関わる

Table 1 2002年度 2年生特設科目「国際協力とジェンダー」授業スケジュール及び内容

月日	授業担当者	授業内容または授業題目
4/9	附属高校教官	ガイダンス及び事前調査。「ジェンダーに関する意識調査」及び「国際協力とジェンダー」に関するアンケート。
4/16	附属高校教官	「ジェンダーとは？」及び先週の調査の結果について討論。
4/23	御船美智子(生活科学部)	「はたらくこと・お金・家計とジェンダー」
4/30	牧野カツコ(人間文化研究科)	「世界の家族とジェンダー」
5/7	館かおる(ジェンダー研究センター)	「ジェンダーセンシティブな国際協力とは？」
5/14	内田伸子(人間文化研究科)	「会話に見られる性差…会話は“権力の具現装置”か?…」
5/28	附属高校教官	大学教官による授業の補足説明。生物学的な男女の違い。
6/4	附属高校教官	これまでの大学教官による授業に対する事前及び事後アンケートの結果について討論。
6/11	附属高校教官	「生物学的な違いと社会的な差」と「制度・経済の問題」について、2グループに分かれて話し合い結果を報告。
6/18	村上薫(外部講師・アジア経済研究所)	「トルコの工場女性労働とジェンダー規範」
7/9	附属高校教官	これまでの授業を振り返り、国際協力になぜジェンダーの視点が必要なのかについて検討。
7/16	附属高校教官	インドやアフガンの女性について。1学期の授業全体についての討論。夏休みの個人研究の課題についての説明。
夏休み	課題：「授業と関連するテーマを各自が自由に決めて調査・研究する」	個人研究。 授業に参加している生徒の両親を対象に、「ジェンダー意識および子育て観に関するアンケート」の実施
9/3	附属高校教官	夏休みの課題(個人研究)の発表
9/10	附属高校教官	夏休みの課題(個人研究)の発表
9/17	戒能民江(生活科学部)	「ドメスティック・バイオレンスと台湾の女性」
10/8	箕浦康子(人間文化研究科)	「途上国の子どもと教育」
10/15	伊藤るり(ジェンダー研究センター)	「インドのSEWA(自営女性労働者協会)の取り組みに学ぶ」
10/29	附属高校教官	前回までの3人の大学教官による授業に対する事前及び事後アンケートの結果について討論。国際協力のあり方を討論。
11/2	波平恵美子(文教育学部)	公開教育研究会 特設講座(2時間) 「海外医療援助とジェンダー」
11/5	附属高校教官	特設講座についての意見や感想。
11/12	附属高校教官	地球的課題への国際協力についての討論。 私達に何が出来るかを考える。
11/19	三浦徹(文教育学部)	「日本の中東・イスラム認識とジェンダー」
11/26	鈴木良一(外部講師・ジョイセフ(家族計画国際協力財団))	「国際協力とジェンダー」：女性の健康向上とエンパワーメントが、人口問題解決への鍵
12/3	附属高校教官	2学期の授業全体についての討論。 冬休みの課題についての説明。関連資料の配布。
冬休み	課題：「私たちにできる国際協力」を探す。	個人およびグループでやってみたい、実際に可能な国際協力を探し、提案する。
1/14	附属高校教官	冬休みの課題の発表。
1/21	附属高校教官	冬休みの課題の発表。 実際に行う活動の決定→本年度は、ユニセフの募金に決定
1/28	附属高校教官	具体的な活動に向けての話し合い。役割分担。
2/4	附属高校教官	ユニセフ募金活動の経過報告。 2/3に行われた「アラブ諸国女性訪問団との意見交換会」への出席者による感想。
2/18	附属高校教官	1年間のまとめと感想。 「ジェンダーに関する意識調査」(事後調査)
学年末	課題：「1年間の授業で最も興味をもったことについて更に調べる、または活動をし、その内容をまとめる」	ユニセフ募金活動を通して考えたことも記す。 また、1年間の授業を通して、学んだこと、思ったことを自由に記す。

太字は大学教官および外部講師の授業

意識ならびに保護者の方のジェンダーに関わる意識や子育て観についての調査を行い、「ジェンダー意識」について、子どもと両親の意識の関連についても検討した。

〈授業概要〉

2003年度の授業スケジュールおよび内容はTable 2（1年生）およびTable 3（2年生）の通りであった。授業内容は、2002年度に実施した講座の結果を踏まえて、それぞれの授業内容およびカリキュラムを工夫した。

(1) 1年生特設講座「ジェンダーフリーを学ぶ」

2年生と異なり、“ジェンダー”のみに注目した講座であり、“ジェンダー”についてゼロからみんなで一緒に考える、ということを基本目的としている。そして、初歩から考えるということで、大学教官の授業数を絞り（5名）、学外の施設見学などを加えたカリキュラムになっている。

しかし、残念なことに、希望する生徒の数が2003年度は非常に少なく、3名のみであった。例年、“ジェンダー”に関する特設講座は、決して人気があるとは言えず、“ジェンダー”という言葉にあまり魅力がないもしくは抵抗があるのではないかということがうかがわれてきた。この点は、2002年度や2003年度の2年生の受講生の4月最初のアンケートからも示唆されており、1年生でも顕著に見られたといえる。これまで得られたアンケートの回答には、“高校に入るまでの学校生活の中で受けたジェンダーに関わる授業の内容が興味の持てないものだった”、“ジェンダー、ジェンダーと言われすぎて嫌になった”といったものが多く見られ、適切なジェンダー教育がいかに大切で重要であるかがうかがわれる。今後、ジェンダーフリー教育を推進し、よりよいカリキュラムの開発・教材の開発を行い、ジェンダーフリー教育の普及に資するためには、高校だけでなく、義務教育の段階でのジェンダー教育についても検討していく必要があると思われる（具体的なアンケート結果の内容は、資料3を参照）。

(2) 2年生特設講座「国際協力とジェンダー」

2年生の講座は、昨年から引き続いて同じテーマということもあり、2002年度の結果を踏まえていくつかの新たな試みを行った。まず、2002年度よりも大学教官および外部講師の講義の数を減らし（9名）、なるべく連続しないようにし、前後の授業で予習および復習

できるようにした。次に、授業の実施についても、同じ講師に1学期の最初の時期と3学期の締めくくりの時期に2度講義をしてもらい、同じ講師に2週連続しての講義を実施してもらい、という試みも行い、よりよい授業の実施形態についての検討を加えた。また、2002年度の授業では、“大学の先生は年配で、大御所といった感じで親しみが持ちにくい”という意見もあったため、大学生でボランティア活動を行っているグループや、若い研究者（助手）の講義も実施し、授業内容や講師により親しみをもってもらえるよう工夫した。

2003年度の2年生の講座は、受講生が20名であったが、第一志望の生徒は少なく、希望した他の講座に抽選ではずれたのでという受講者も多かった。第一志望でも“ジェンダーは嫌だけど、“国際協力”がやりたいので”という受講者が多かった（具体的なアンケート結果の内容は、資料4-1、4-2を参照）。

〈調査内容及び結果〉

(1) 大学教官および外部講師の授業についてのアンケート

1年生、2年生ともに、授業の後にアンケートを実施した。2002年度は、授業の前後に2回アンケートを実施したが、事前のアンケートについては、「題目」についてのアンケートにしかならず、生徒からの“アンケートの回数が多すぎる”という意見もあり、2003年度は事後のアンケートに絞って実施した。結果は、2002年度と同様に授業ごとにまとめて、大学教官および外部講師にもフィードバックを行った。また、受講者が結果を見ながら授業について振り返る時間を設け、それぞれの授業についての意見を交換した。

アンケートの内容は「授業でどのようなことがわかったか」「授業は期待通りであったか（非常に不満足～非常に満足の5段階評定）」「なぜ期待通り（期待はずれ）だと思ったか」「その他（何でも）」の4点であった。

2003年度の受講生のアンケートの結果から、以下のような点が示唆された（具体的なアンケート結果の内容は、資料5および資料6を参照）。

①授業時間の問題：1年生、2年生ともに、「まとまりがない」「質問の時間がない」という回答もみられたが、概ね好評で、2002年度よりもかなり改善されたように思われた。

2002年度に引き続いて担当した大学教官も多く、アンケート結果のフィードバックから、教官側の努力が

Table 2 2003年度 1年特設講座「ジェンダーフリーを学ぶ」授業実施状況

回	月	日	授 業 内 容	テ ー マ
1	4	15	ガイダンス・自己紹介、アンケート ・お金と愛情どこで妥協(読売新聞)(話し合い)	
2		22	個々への問題提起(男女についての意識) ジェンダー、ジェンダーフリーという言葉の意味	ジェンダーとは
3	5	6	・“女だから”のふしぎ(魔女っ子クラブ作、遥書房) ・小学生の大人になったら「なりたいもの」(第一生命調査結果)	「らしさ」を考える ①「らしさ」について考えを出し合う ②社会からの影響について知る
4		13	館かおる「メディアとジェンダー形成」	
5		20	館先生のお話を踏まえて 女の子のらしさ、広告の中の男女の色分けなどについて(話し合い)	
6		27	・女性学への招待(井上輝子著)	生活における性役割分業の実態を考える ①身近な現象で疑問に思うことをとりあげてみる ②日本の実態や諸外国の取り組みを知る ③“苦勞”は女性ばかりではない?!
7	6	3	牧野カツコ「家庭生活とジェンダー」	
8		10	牧野先生のお話を踏まえて「家族とは何か?」(話し合い) ・ホームレスになったお父さんの話	
9		17	・女性学への招待(井上輝子著) M字型就労について(話し合い)	
10	7	1	施設見学「女性と仕事の未来館」	地域の施設の見学
11		8	見学のまとめ 戦中戦後の女性について(話し合い)	年間テーマを見つける
12		15	1学期のまとめ 夏休み課題の確認(「各自が興味を持ったことについてレポートする」)	
13	9	2	夏休み課題の発表	
14		9	・法律で定められている結婚年齢の男女差について	
15		16	・家庭内の男女の分業について子どもの立場からのアンケート調査	
16	10	7	・“世界の結婚”を知る・親子関係とは?	
17		14	松浦悦子「雄と雌-遺伝学からみるジェンダー」	男と女どこが違うのか、違うのか ①身体的客観的な違いとは何か ②性の研究について知る ③脳の違い(解釈と方法)について知る
18	11	4	松浦先生のお話を踏まえて 生物学的な男女差について(話し合い) ・少子化とジェンダーフリー教育の問題(資料)(話し合い)	
19		11	・高校生のジェンダーに関する意識調査(資料)(話し合い)	「女性の一生を見つめなおす」
20		18	・結婚や労働についての資料(話し合い)	①恋愛
21		25	・年金問題資料(朝日新聞、アエラ)(話し合い)	②結婚 ③家庭生活
22	12	2	・国民年金制度について考える(話し合い) 冬休み課題の確認(「身近な女性へのインタビューから学ぼう」)	④老後
23	1	13	冬休み課題の発表	
24		20	内田伸子「会話に見られるジェンダー」	会話行動の性差
25	2	3	内田先生のお話を踏まえて“研究者”の視点について(話し合い) 冬休み課題の発表(続き)	
26		10	冬休み課題の発表(続き) これまでの講師の先生方のお話を受けて(話し合い)	
27		17	富山尚子「心理学と私の生きる道-女性研究者という道」	
28		24	冬休み課題の発表(続き) ・アフガニスタンなどの国々に暮らす女性(資料)	世界における女性支援とその取り組み
29	3	2	1年間のまとめ 最終レポートの確認(自分が決めた年間テーマについて書く)	レポート・感想提出(3/11)

太字は大学教官および外部講師の授業

Table 3 2003年度 2年特設講座「国際協力とジェンダー」授業実施状況

回	月	日	授 業 内 容	テーマ
1	4	11	ガイダンス・自己紹介、意識・希望調査	
2		18	・『ジェンダーで学ぶ社会学』より 「セックスとジェンダー」・「社会的自我形成の仕組み」 ・身の回り・社会のジェンダーについてどう感じるか ・ノルウェー等北欧のクォータ制について 不公平かどうか ・黒河内氏準備 履歴紹介、「世界の女性たちは、いま」という題 でどんなお話を期待するか	ジェンダーとは
3		25	黒河内久美「世界の女性たちは今」	ジェンダーの視点から 社会を見直す
4	5	2	黒河内氏のお話を踏まえて話し合い ・日本とフィンランドの差について ・クォータ制等平等法およびマイノリティへの優遇政策について	
5		16	・アフガニスタン等途上国への女子への手厚い教育支援について 話し合い ・河野先生準備 どんな話し合いを望むか	ジェンダーの視点から見る日本と世界の現状 と課題 ①個人や家庭・地域社会の問題として(現状・ 課題とその文化的・社会的背景) ②グローバルな問題として(同上) ③各国政府の取組み
6		30	河野貴代美「国際協力とは何かーお互いに話し合おうー」	
7	6	6	河野貴代美(第2回) イスラム女性のベール着用(朝日新聞)「美しさを隠すこと」につ いて(話し合い)	
8		13	イスラム女性のベール着用ー義務か自主的な選択かについて(話し 合い続き) 三浦先生準備、紹介	
9		20	三浦徹「イラク戦争と国際協力ー新聞記事を資料として」	
10		27	三浦先生のお話を踏まえてイラク戦争の是非、日本の態度について 等(話し合い)	
11	7	4	戦争のない社会をつくるには(話し合い)	
12		11	1学期のまとめ 夏休み課題の確認(個人調査)	
13	9	5	夏休み課題の発表	
14		12		
15		19		
16	10	3	内田伸子「会話に見られる性差ー会話は権力の具現装置か?ー」	ジェンダーセンシティブな国際協力 政府・国際機関・NGOなどの取組みを中心に
17		17	伊藤るり「インドの自営女性労働者協会(SEWA)の取組みに学ぶ」	
18		31	伊藤先生のお話を踏まえて VTR・新聞記事(最近のインド女性情 報)・話し合い	
19	11	7	内田先生のお話を踏まえて 会話における性差・心理学の研究手法・望ましい授業についてなど 波平先生準備 新聞記事など	
20		21	波平恵美子「海外医療援助とジェンダー(ジェンダー化された身体 と医療)」	
21		28	波平先生のお話を踏まえて、医療教育等国際協力のあり方について (話し合い)	
22	12	5	ユース・エンディング・ハンガー (ハンガー・フリー・ワールドの中学～大学生組織)による授業 冬休み課題(調査・実践活動など)の確認	卒業生含む筑波大学生の希望による
23	1	9	冬休み課題の発表	
24		16	含.黒河内氏準備	
25		23	黒河内久美「国際協力とジェンダー」	
26		30	黒河内氏のお話を踏まえて、国際協力とジェンダーについて話し合 い ・最終レポート予告	
27	2	6	冬休み課題の発表(続き)	
28		20	倉光ミナ子「国際協力とジェンダーーサモアを事例に」	
29		27	倉光氏のお話を受けて、ジェンダーセンシティブな国際協力につい て話し合い	
30	3	5	1年間のまとめ(前回を受けて教育の重要性と困難・国際協力のあ り方について)	レポート・感想提出(3/12)

太字は大学教官および外部講師の授業

引き出されたと考えられた。しかし、2年生の講座では、質問の時間があっても生徒の側が沈黙してしまうという場面がしばしば見られた。この点については受講者にも自覚があったようでアンケートの中で、自発的な発言が少なかったことについての反省も多くみられた。一方、1年生の方では小人数であったことの利点が出て、毎回活発な意見交換がみられた。

②授業内容の問題：1年生の講座では、大学教官が“初心者”ということ意識した内容の授業を行った結果、すべての授業が概ね好評であった。一方、2年生の授業については、わかりやすかったという授業もあったが、難しく分りにくい部分が多かったという意見が多い授業もあり、2002年度以上に授業によって評価が分かれた。特に、“ジェンダー”を中心に扱った授業の中には、講師の意図や熱意がうまく伝わらなかったと思われた授業もあり、受講生の“ジェンダー”に対する興味や好悪が影響している部分も大きいと考えられた。

今回はジェンダーについて積極的に知りたいと思っていない受講生も多かったが、1年間の授業の終わりには、ジェンダーについても知ることができてよかったと答えている。一般に、ジェンダーに対する抵抗感や嫌悪感をもつ生徒も少なくないと思われるが、今後も、多感な時期である高校生を対象とした授業の中で、どのような形で“ジェンダー”を取り上げるのがより適切なのかをより慎重に考え、ジェンダーに対する正しい理解と興味を深めてもらえるよう考えていかなければならないと思われる。

全体としては、50分でまとまりのある、テーマを絞りわかりやすい内容だった授業は、非常に評価が高く、高校の通常の授業では得られないような知識を得られたことに満足度も高かった。従って、昨年の経験と結果が着実に生かされ、高大連携カリキュラムが効果を発揮しつつあると考えられる。

③授業の形式：個々の授業の内容が消化しきれていない場合も多かった2002年度の反省から、大学教官や外部講師の授業の間隔をあげ、予習および復習の時間を設けたことにより、この点についてもかなり解消されたと考えられた。また、いくつか試みた授業の実施形態については、2週連続での授業や若い研究者の授業は、非常に好評であった。

今後も、受講生自身が考え、理解する時間が十分に持てるような進行や、講師への親しみやすさなど、よりよい授業のための形態を今後も詳細に検討していく必要があると思われる。

(2) 高校生のジェンダーに関わる意識ならびに保護者の方のジェンダーに関わる意識や子育て観についてのアンケート調査

2002年度の予備調査をもとに、本調査を行った。

調査時期：2003年11月～12月

調査対象：高校2年生およびその両親

調査対象校：お茶の水女子大学附属高校、東京都、静岡県、および福島県の私立女子高校、東京都の公立共学高校および男子高校の計6校、約800組。

使用尺度：昨年度の予備調査により選択：性差観スケール(伊藤、1997)、平等主義的性役割態度スケール短縮版(鈴木、1994)

本調査の結果については、機会をあらためて詳しく報告する予定である。

4. 今後の課題と発展

これまでの受講生の意見を踏まえて、さらにわかりやすく、魅力のある授業を行い、ジェンダーに関する正しい理解を促進できるよう、質の高いカリキュラムの開発・教材の開発をめざす。特に、2004年度は、本プロジェクトの3年目にあたる区切りの年であり、附属高校での、1年生「ジェンダーフリーを学ぶ」、2年生「国際協力とジェンダー」のカリキュラムの完成をめざすとともに、一般の学校の総合的学習の時間などに実践可能なカリキュラムの開発・教材の開発にも重点をおく。

さらに、2004年度は、高校2年生は、1回の授業を2時間連続とする授業形態を試みる。2003年度に試みた2週連続の授業は非常に好評であり、授業内容の理解も高かった。2時間続きとすることによって通常の大学の授業時間と同様になり、これまで以上に大学教官の授業の本来の特徴や面白さも発揮されるのではないかと期待される。また、高校生の大学の講座や演習などへの参加も積極的に行っていく予定である。

資料 2 2002年度 授業感想の具体例

<p>ジェンダーと世界の発展とエンダー</p>	<p>授業料</p>	<p>何を学びたいかと思いませんか？</p>	<p>何を学びたいかと思いませんか？</p>
<p>どのよなか内閣の話と思いませんか？</p>	<p>他の先達では、日本より女性が多く、制度も充実している。</p>	<p>先達内閣では、日本より女性が多く、制度も充実している。</p>	<p>日本より女性の社会進出のよかかなの程度、発展に対する考え方が知りたい。</p>
<p>先達内閣での発展の進歩に対する考え方</p>	<p>先達内閣での発展の進歩に対する考え方</p>	<p>先達内閣では、女性の地位が高く、女性は家庭より固定の収入が確保されていて、国の発展を助けている面がある。</p>	<p>日本と他の国を比較して、これから日本はどうすればよいか？</p>
<p>発展途上国での女性の地位の低さをやそれに關する問題点</p>	<p>各所で、発展の中で、夫、妻、子、母としての役割がどのように異なっているかという話。</p>	<p>たいていの国では、女性就業、男性が外で働くという考えや習慣をわけるけれど、一軒の家庭では、それが生活であったり、男と女の役割の区別はそれほどなかったか...という話。</p>	<p>途上国に比べてから発展していること、ジェンダーとの関係。</p>
<p>日本だけでなく、世界の国々でいろいろなエンダーの進歩や、同じことがあるというお話</p>	<p>世界では、日本のおおきく男中心のところがなく、女性が中心となって事業を支えている国もあるという話。</p>	<p>世界では、日本のおおきく男中心のところがなく、女性が中心となって事業を支えている国もあるという話。</p>	<p>なぜ、遅れている土地なのに、女性就業、男性が外で働くという考えは共通しているのか、それは、どの本編で、生かされた考えなのか？</p>
<p>画によって、発展のジェンダーにどのような違いがあるかについて話(？)</p>	<p>画によって、発展のジェンダーにどのような違いがあるかについて話(？)</p>	<p>発展途上国の人々の家庭では、女の子は学校に行かなくて働くことが多く、進学率が低い。</p>	<p>今までの授業では、基本的に日本での話だったので、今度は発展を比べて世界というところで、おに知らないことだらけなので、おしりが届かないくらいでいいので、おに集めて、日本と他の国のジェンダーがどのくらい違うのかを知りたいです。</p>
<p>画や地域によって文化や社会が異なるので、当該女性の地位も違い、世界には日本や他の先進国には見られない、'家業'がある。また、その'家業'の継承など。</p>	<p>画や地域によって文化や社会が異なるので、当該女性の地位も違い、世界には日本や他の先進国には見られない、'家業'がある。また、その'家業'の継承など。</p>	<p>ジェンダーが異なる画がほとんど、おしりそのおに画に比べて、どのおに文化、社会的背景からかな？</p>	<p>ジェンダーが異なる画がほとんど、おしりそのおに画に比べて、どのおに文化、社会的背景からかな？</p>
<p>画や地域によるエンダーについての考え方の違い。</p>	<p>画や地域によるエンダーについての考え方の違い。</p>	<p>特にありません。</p>	<p>ジェンダーの意識がなっていない国と、行でい聞ほど意識があるか、日本と全(全)エンダー女性が進歩をするのが当たり前の考え方を持っている地域はないか、画や地域による、おに考え方によってか？</p>
<p>それぞれの画での、性別役割分業や、発展内での女性の地位</p>	<p>それぞれの画での、性別役割分業や、発展内での女性の地位</p>	<p>発展途上国では、発展内でも社会でも女性の地位が低いことが多い。</p>	<p>画や地域による、おに考え方によってか？</p>
<p>世界各々の発展、それによってエンダー</p>	<p>世界各々の発展、それによってエンダー</p>	<p>他の画の中では、女性の社会進出を促進するような政策、制度の整備の進捗が異なる。</p>	<p>外国のいことでも、日本で発展に比べていられないよるよるが聞かないのかを聞きたい。日本は明らかと遅れていると聞か、こいつの面でも改善が必要</p>
<p>発展を助けてみて、どのよなかと比べておに話したいか。</p>	<p>日本は予見していた発展の画より発展の中の男女の役割がはっきりと見えていた。</p>	<p>なぜ満足できないか(満足していない)と思いませんか？</p>	<p>満足度(1~6)</p>
<p>どの方で、おに家業の買、物しているキヤスターの地位があつたけど、改めて考えると、その時自分、進歩を感じていたので、いかに日本では女性が有能なことが一般的でないのなと思つた。</p>	<p>どの方で、おに家業の買、物しているキヤスターの地位があつたけど、改めて考えると、その時自分、進歩を感じていたので、いかに日本では女性が有能なことが一般的でないのなと思つた。</p>	<p>私も将来は家業を立ち上げ、子ども欲しいと思つているので、自分の人生の夢を叶える必要はあります。</p>	<p>(かみ判定)</p>
<p>女性の収入が多かつた、男性の収入が少いのは先進国だと思つていたので、タナなど、農業を業で行っていたり、自営業で同じことが言えることを知り、なるほどと思つた。</p>	<p>女性の収入が多かつた、男性の収入が少いのは先進国だと思つていたので、タナなど、農業を業で行っていたり、自営業で同じことが言えることを知り、なるほどと思つた。</p>	<p>途上国についての話、聞いてみたいと思つた。</p>	
<p>スウェーデン、ノルウェーの男性が有能に夢中なことを、会社は女性の社会進出を推進していることばかりでした。</p>	<p>スウェーデン、ノルウェーの男性が有能に夢中なことを、会社は女性の社会進出を推進していることばかりでした。</p>	<p>すばらしい制度だと思います。</p>	

<p>授業前に予想していた内容と大体同じだった(育児・家事の負担の割合(男と女の)の各国の違い)。 また、韓国と日本の比較から、日本がいかに父子の触れ合いが少ない国かということを知れた。 また、その触れ合いも、他の国に比べて強いものかということも知って、これで日本は大丈夫なのか?と思った。 やはり、日本の父は会社に縛りつけられていることが原因だと思ふ。 スウェーデンと日本の育児休暇についての比較はとても興味深かった。</p>	<p>スウェーデンの会社は子どもとの触れ合いを大切に考えてくれているのに、日本の会社は休まれることを嫌がっていて、育児休暇が浸透しない。 私が社長だったら、育児休暇を奨励するのはなあ… インタビューでもあるように、日本のこのような考え方はさすがに!と思った。 ただでさえ、核家族化が進んでいるのだから、父親との触れ合いは欠けるべきではないと思う。 しかし、今すぐ改善するわけではなく、日本の会社の考え方を変える必要があるし、そのためにも、みんなにそういう考え(触れ合いは大切!)という考えを浸透させていかなきゃいけないので、スウェーデンのようにするには、まだ時間がかかると思った。</p>	<p>5 (非常に満足)</p>
<p>とてもわかりやすく、興味をもって話を聞いた。 私が期待していた様々な国と日本の比較、特に先進国とは違う、独自の文化の中で生まれたジェンダーに対する見方を知りたいと思っていたが、同じ先進国の中でも、家族の役割が異なっている国があることを知って驚いた。 スウェーデンのような育児制度を取り入れべきだと思った。</p>	<p>他の国との比較が、項目がとても多く、グラフできれいにまとめられていてわかりやすかった。 日本人の意識や、問題点が授業の中ではっきり取り上げられ、これからのこの問題の解決策がわかった気がする。 説明や授業展開もとても明確で楽しかったから。</p>	<p>5 (非常に満足)</p>
<p>日本の父親とスウェーデンの父親ではだいぶ違うんだなあと思いました。 というか、ピデオに出てきた日本の父親があんな平然と「夫は仕事で、妻は子育て」というのが普通だ”というようなことを書いているのに驚きました。なんて古い考え方が、今でも十分残っているのでしょうか… タイや韓国の父親も、日本の父親と似た傾向が見られるようですが、なぜアジア圏の先進国の父親は、頭が固いのか、考え方が古いのでしょうか、と思いました。 現代の日本では(まだまだ様々な障害があるのでしょうか)、だいぶ女性が社会進出をはたしていると思います。 その中には、もちろん母親である人も大勢いると思います。 そういうふうに社会が変わりつつあるにも関わらず、男性(父親)のこのような古い考え方が変わらず残っているというのはおかしかったです。日本もスウェーデンを見習うべきだと思いました。</p>	<p>先生がいてないお話しして下さったので、わかりやすかったです。 ピデオも興味深かったです。 予想とは違って、テーマが「先進国～”だったみたいなので、途上国の女性の家庭内での身分の低さとか、そういうのはなくて、しかもむしろ男性に焦点をあてて話が進んでいたのが、予想外で、とても新鮮でした。</p>	<p>5 (非常に満足)</p>
<p>他の先進国などと比べても男性が育児に関わる割合が日本は特に低いことがわかりました。 そして、父親の労働時間、世帯収入に占める父の割合は、非常に高いこともわかりました。 だいぶ予想はしていましたが、これほど他の先進国と差があるとは思っていませんでした。 特に、アメリカやスウェーデンは凄いと感心しました。 2人での男性が主に、が多(特に日本との違いははっきりしていました)。 また、ピデオを見ても、スウェーデンと日本の男性の考えは全く違っていることがよくわかりました。 積極的に育児に参加しようとするスウェーデンの男性、育児は夫の専任ではできないと思う、また育児(家事など)をしないことを自慢する日本の男性。 女である私には、上記の男性の方がずっと懐く感じがしました。 ピデオを見ていて、日本の女性は男性にもいろいろなことを任せてみていい気がしました。 それによって、男性が自信を持ち、やる気になってくれることがあるかもしれないし…</p>	<p>日本では、今まで働く女性も子どもを産むことと仕事のどちらかしか選ぶことができなかった場合が多かったが、自分の好きな仕事を続けつつ、大変な子育てをこなしていくことを可能にしている国が実際にあることが分かり、とても心強く感じました。 残念ながら、そのような国と同じような制度はありませんが、日本では「頑強いジェンダー」のために、「男女の賃金差もあるが…」周りからの理解もあまり得られず、利用しにくくなっています。 しかし、働いてただお金を稼ぐだけが「男らしい」ことではないこと、育児は子どもと情をより一層深めることができる貴重な機会であること、自分自身の柔軟性が養われ、子どもの発達にもいい、などのたくさんの利点を持っているのだから、それが少しずつでも人々に理解されていって、日本がスウェーデンのような国になるのも夢ではないと思います。 そのためには、日本でも育児休暇に関する法律を作っていくべきだと思う。 また、企業などにも理解を求めていくのも大切です。 日本は目先のことばかりに気がとられすぎていると思います。 もっと長い目で日本の将来のことをよく考えてみれば、それがとても必要なことだと気づくだろうと思います。 一刻も早くみな理解し、女性が夫とともに子育てと仕事を両立できるような社会になって欲しいです。</p>	<p>5 (非常に満足)</p>
<p>日本とスウェーデンを比較したピデオを見て、日本ではまだまだ固定観念にとらわれている人が多いと感じました。 公園のインタビューで「家事はやらなければならない」とか、「女の人の仕事だから」等、当たり前になっている人がほとんどで、驚きました。 又、最後の方で育児を推進しているスウェーデンの会社はテレビで会社の名前を言うことを条件に取材を受け入れているのに、日本では聞そうしてたり…そういう所から意識の違いも見えてくるように思います。</p>	<p>日本のことだけでなく、他の沢山の国の事情もよくわかっておもしろかったです。</p>	<p>4 (かなり満足)</p>
<p>他の国と比べて、日本にはまだまだ家庭での男女の役割分担が残っているということが、数値などからハッキリわかりました。 ピデオを見て、スウェーデンの人々の意識の違いに驚きました。 日本の父親の育児参加の低さにもビックリしました。</p>	<p>日本の偏った考え方のおかしさに改めて気づくことができました。 男の人でも、育児休暇がとれるなんて、全く知りませんでした。 将来、子どもが産まれたときなどに役に立ちそうな話だと思いました。 やっぱり、子どもは、父親と母親の両方と、たくさんふれ合うほど、プラス効果があるんだと思いました。</p>	<p>4 (かなり満足)</p>
<p>大まかな内容は期待通りだったので聞きやすかった。 それとなく知っていたスウェーデンのことをもっと詳しく聞いて、ピデオもまた分かりやすかった。 男性の育児休暇の取得の現状は初めて知ることが多かった。 スウェーデンでは会社が育児休暇制度をステータスとしているのに対し、日本ではあまり知られていない事しているのが、日本人として驚きを感じた。 公園でカウイイお父さん達がベビーカーを押して行進していたのが日本の公園でも見られたら、日本は本当に変われると思う。</p>	<p>今回初めて知ることでも、例えば意外と韓国も男親女専断な考え方をしているといったことについては、具体的な話がまったくなかったのもっと知りたいと思ひ、今回の1回だけでは満足できないと思った。(新たな発見ができたという面では満足) それから、(きと)この世界の権威である先生の個人的な考えをもっと聞きたかった。</p>	<p>3 (どちらともいえない)</p>

資料3 2003年度 初回および最終回授業感想(1年生)

1年の初めに			
なぜ「ジェンダーフリーを学ぶ」を選択しましたか。	「ジェンダー」と聞くと、 どういふことを思い浮かべますか。	これまでに「ジェンダー」という 言葉を聞いたことがありますか?	この授業を通してどういふことを勉強し、考えていきたいですか。 授業への要望も書いてください。
中学校の社会の授業や日常生活において、 何かと「ジェンダーフリー」を実現しようとしているのが 分かりますが、色々納得のいかないことがあるので、 この授業を通して理解したいと思ったからです。	女性の社会進出が困難なことです。	ある 中3の頃、社会科の授業で	「ジェンダーフリー」の実現のために、まず名簿が男女混合になりましたが、 それはあえて変えるほどのことではないと思うし、結局身体測定などの時には 男女別にその名簿を分別しなくてはいけないので、かえって面倒になったように思いました。 また、男子校、女子校をやめて全て共学にすべきだという動きもあります。 男子校、女子校には共学にない良さがあります。 何でもかんでも同じにすればいいのか、と思います。それなのに、 男子と女子の制服が違うことには誰も異議を唱えません。 おかげで女子は冬にはとても寒い思いをしなくてはなりません。 私は、それこそが「女の子はやっぱり制服だ」という偏見であり、とても矛盾していると思います。 このようなことを、いろいろな人の意見を聞いたりして考えていきたいです。
ジェンダーフリーという言葉は以前から知っていましたが、 あまり詳しくは知らなかったもので、 もっとよく知りたいと思ったからです。 また、なかなか深く考えたりすることのないテーマであり、 しかし将来のためによく知っておくべきことだと 思ったので、この講座を選びました。	あまり日常的な言葉ではないので、 「ジェンダー」と聞いてもピンときません。 しかし、「ジェンダー」とは生物学的な性別ではなく、 社会や文化の中での性差というようなことだと 教わりました。	ある 中3の時、公民の授業で 習いました。	まず「ジェンダーフリー」という言葉自体、私はまだはっきりと意味がわかっていません。 ですから「ジェンダーフリー」とは何か、具体的に社会ではどのようなことが それにあてはまるのか、などをまず勉強していきたいです。 そして、現代の社会で行われている性差別は改めるべきなのか、 これからどのような社会をつくっていけばよいのか、などを考えていきたいです。 大学の先生など、「ジェンダーフリー」についてよくご存知の方にもお話を伺いたいと思います。 また、女性からの視点、男性からの視点など、さまざまな視点から考えていきたいと思っています。
お茶の水女子大学には、ジェンダーフリーを専門に 研究している機関があると聞き、 ほとんど知らないジェンダーフリーを学ぶ いい機会だと思い、選択しました。	総合学習の講座説明会で初めて聞いた 言葉なので、特にありません。	ない	ジェンダーやジェンダーフリーについて全く無知なので、 一からいろいろ教えていただきたいと思っています。 専門の方々のお話をいろいろ聞けたらいいなと思っています。 「ジェンダーフリー」という新しい支店が今現在の社会、そしてあるべき社会を見つめ、 探していくことができたらいいと思います。

「ジェンダーフリーを学ぶ」1年間の授業を終えて				
(1)ジェンダーについての考え方で何か以前と変わったところがありますか？	(2)他の授業と比べて、「ジェンダーフリーを学ぶ」の授業の、よかったと思われる点は何かありましたか？	(3)悪かったと思われる点は何かありましたか？	(4)この授業を通して何か得ることができたとすればそれは何ですか？	(6)この授業の1年間の満足度はどのくらいですか？ (非常に不満足～非常に満足の5段階評定)
授業を受ける前は「ジェンダー=悪いもの」として偏った見方しかできなかったけれど、授業を受けるようになってから「白黒つけ難い微妙な問題」も見えてきました。	先生3×生徒3の少人数なので、一人一人が十分に発言できる点。「女性と仕事の未来館」に行けたこと。	一回一回「～について」という明確なテーマがよくわからない点。	少し前より広い視野・柔軟な考え方が	5
ジェンダーに関する言葉や出来事に敏感になり、その言葉やできごとについてちよっと立ち止まって考えてみたりするようになった。ジェンダーフリーに関する意見の中には正しいことも間違っていることも、どちらともいえないこともあるので、ひとつひとつよく吟味して、自分がどういう考えをもって生きていくかということを考えていく必要がある、と思うようになった。また、それはジェンダーのことに限らずあらゆることにあてはまると思う。	少人数だったので、いろいろな意見が自由に出て、とても参考になった。他の授業よりも深く考えることが多かった。何回か大学の先生にとっても興味深いお話を伺うことができてよかった。	なし	ジェンダーのことを勉強していく中で、様々な人の生き方があることを知った。それは、私は今後どういう道に進んでどう生きるかということを考える上でとても参考になった。「こんな生き方があるのか」と視野が少し広がった気がする。	4
この授業を受けるまでは、ジェンダーについて深く考えたこともなかったし、あまり疑問や不満を抱くこともなかったが、この授業で、いろいろな女性の社会的な問題に気がつき考えることができた。	少人数だったので、先生や講師の一方的な話しや講義にならず、近い距離で聞いて考えることができたところ。自分の考えを話しやすかったし、友達の見聞もいろいろ聞けてよかった。また、質問もしやすかった。いろいろな視点から(心理学や生物学・社会学など)一つのテーマについて考えることができたところ。様々な分野の専門家の方のお話を聞くことができてとてもよかった。	その日にやる内容がはっきりしていなかったところ。	様々なものの見方。考えること。	4

資料4-1 2003年度 初回授業感想 (2年生)

なぜ国際協力和ジェンダーを選択しましたか。	この授業を通してどういことを勉強、考えていきたいですか、授業への要望も書いてください。	これまで「ジェンダー」という言葉を聞いたことがありますか。	その他 (大学の先生に対するイメージなど)
自分の将来の進路を考える上でジェンダーについてもっとよく知っておきたいと思ったから。地理の授業で人口問題のときにジェンダーについて少し触れて、それがけっこう興味深い内容だったので、とってみようと思った。	ジェンダーについて理解を深め自分にできること、やるべきことを考える。個人的には自分が将来、男性と対等に、もしくはそれ以上に働いていくためにはどんなことをすれば良いのか、とか(?)そんなことが分かってる(見えてる)ようになりたいと思っている。	ある 地理の授業	
第一希望がはずれたので3つの中から選ぶことになり、選択しました。中学の時にジェンダーについて(わく)学びました。でもその頃はあまり興味がわかかったし、調べ学習などが多かったので、何かしっくりしていない感じでした。だから高校の中で改めてもう一度ジェンダーについてよく知りたかったし、ちがう面(?)を知りたかったので選びました。	中学の時のジェンダー学習は、身近なことから入ってそこで終わってしまった。実際にどんなジェンダーがあるか、などもほんの一例だったし、ジェンダーをなくすための法律についてはほとんどふれなかった。だからジェンダーについてもっと広く(法律・音と今(改善されているのか)・世界では)知りたい。それに、他の人がジェンダーをどのように考えているのか、も知りたい。国際協力については、まだよく知らないの、いろいろ教えてほしい。	ある 中学	
・身の回りにあるジェンダーについて、前から興味があつたから。 ・合宿で、リプロダクティブヘルスの授業を聞いて、世界の国々の女性が、様々な状況におかれていることを知った。日本だけでなく、世界に目を向けたジェンダーについて知り、私たちにできることは何かについて、考えたいと思ったから。	・世界の国々のジェンダーと国際協力について。 ・私たちに今できる協力とは何か、考えていきたい。 ・将来、仕事をしてみたいと思っているが、社会の中での、男女差の実態について勉強していきたい。	ある 中学校	
自己紹介でも言ったように前地先生と校長先生のコンビにまずひかれました。あとジェンダーにはあまり興味がなかったのですが国際協力には興味があつたので選択しました。ですがこれから双方について自分なりに考えを深めていきたいと思っています。	国際協力は今現在世界にとって最も重要なことだと思ひ、皆で考え、話し合うことで自分の考えをより深いものにしてきたいと思っています。あと世界の国々についてもっと知りたいです。それに関するビデオや本などを見る時間も少しはあるといいなと思います。	ある 高校に入学してから ちらほら...	
私は将来国際協力に関する活動をしたと思っています。そのためにも、今世界がどのような状況なのか知っておくことは大切なことだと思ひ、選択しました。もちろん、ジェンダーにも興味があつます。	今、世界で起こっている問題、あるいは私達が見習うべきことを知りたい。できればその土地の古からの文化も学びたい。その上で私にできることは何なのか考えていこうと思ひ。	ある 高校の授業で	(私は、中学では全くジェンダーについて触れたことはありません)
去年、大学の先生のお話を聞いて興味を持ったため、性別を男・女にはっきり分けるのではなく、中間もいたっていいじゃないか...のような話が印象に残っている。	私は主にジェンダーを中心に学びたい。いかに今の社会が性別によって曲げられているか、など社会学などの面からアプローチしたい。	ある 高校になって 授業などで	
第一〜第三希望に入れなくて、あみだじで決まったのがきっかけです。	高校に入るまで、「ジェンダー」という言葉を聞いたことなかったのですが、ジェンダーとは何か、という基本的なことから知りたいです。またそれが今後私自身が社会へ出ていく時にどのように関わってくるか、について考えていきたいと思っています。国際協力については、ヒトゴトではなくて自分自身の立場で何ができるか学びたいと思います。	ある 高校で地理や合宿の 授業で	
高校に入り、国際協力和興味を持ち、将来、世界の人々のためになる仕事をしたいと思ひようになりました。そんな時に、アフリカのアフリカ人の話を聞き、参加しようと思ひ参加したところ、国際協力というのは自分が思っていたよりも大変で、一筋縄では絶対いかないものなんだということが実感しました。この経験から、国際協力はどのようなもので、どのように進めていくものなのかというところを勉強していきたいと思ひしたのでこの講座を選択しました。	ジェンダーの事はあまりよく知らないの、まずジェンダーとは何かということを知りたいと思ひます。ジェンダーを国際協力の視点からも考えてみたいと思ひます。また、国際協力をすすめるためには、世界のことをよく知らなくてはならないので、イスラム教などの宗教についても触れたいと思ひます。あと、今、どこの国の人々が危険などで苦しんでいるのかも知りたいです。	ある 高校に入ってから、 授業等で	
実用文章処理に落ちて(けんけんは嫌です...)、フランス語、ジェンダー、化学からどれか...と言われたのでうちジェンダーで!!な感じであみだじに参戦しました。(もうふれる機会が無いと思うので一蹴(事に成功したら)	具体的な「男女差別」の実体を知りたいです。どんなものがあるか、都合の良い時だけジェンダーを口にするのも何か嫌なので、法律やその他の決まり事、習慣などが知りたいです。	ある 中学生の時小園に 出て来た大男(心は女) が言っていた。	重?にコンピューター化学(科学?)の講義を受けました。話にはわからなかったのですがその後のコンピューターいじりは楽しくてそこで理解しました。
合宿で聞いた「リプロダクティブヘルス・ライツ」の講義にショックの気持ちをおぼえたのと、以前NHKで見たスーパーモデルの人生のようなものを見ていて、ジェンダーについて改めてよく知りたくなったから。	世界中の女性がどう言う立場に置かれているかや、法律の制定してもまだあるジェンダー(なぜ存在するのか)など、日本は金銭だけの協力を言われているが、他の外国はどうなのか、みんなでも話し合う時間をしっかり作ってほしい。	ある 中学3年生のとき 家庭科の授業で	・法律や生活の中のジェンダー(求人広告など) ・中学の先生が授業だけでなく、生活の中でも(くどくど)言ってきた。(にもつが...)

<p>私は、募金に興味があり、実際にその場に行く事はできないけれど、自分が協力した事によって人が救われると考え、もっと活発に募金活動してみたいと感じていました。 また、私が国際協力の現状を知る事によって、家族も知る事になり、結果的に役に立てると思い選択しました。ジェンダーについても、テレビで「片付けられない女達」とよくやっているが、なぜ「片付けられない男達」はないのかと感じていて男女差別とメディアで取り上げられるようになって、結局は質問がなくてジェンダーが生じていると感じ、もっと深く学びたいと思い選択しました。</p>	<p>国際協力については貧困などの現状を知るだけでなく、実際に私達には何が出来るのか(身近な所から)について学びたい。やりたい事は、募金をするのな力を入れてやりたい。(コンビニに寄っておかせてもらった) 私達が学ぶ事によって、それが家族であったり、地域の人にとっても少しも影響を与えられるような事をしたい。講義を聴くだけでは、私はまだ、活動をしたい。</p>	<p>ある 中学の授業</p>	
<p>第1希望がダメでその次に興味があったのが「国際協力とジェンダー」だったから、これからはこういう知識も必要になってくると思うから。</p>	<p>国際協力にはどういふものがある、私達には何が出来るのかなどを学び、みんなと意見を交換していきたい。</p>	<p>ある</p>	<p>それぞれが調べてお互いに見た。ジェンダーはどいうところにあるかなど。ジェンダーはやりすぎてあきていた。中学の先生がきかれていた。大学の先生の授業は専門的でもう少しそんなイメージ。</p>
<p>異文化理解が第1希望だったので、人数が多すぎたので、国際協力とジェンダーになりました。</p>	<p>私は身近にあるジェンダー(男が思い物を持つ、女が子育てをするなど)があまり悪いこととは思いません。そういうことみんなの意見を聞いてみたい。国際協力の方では、実際に活動してみたい。</p>	<p>ある</p>	<p>大学の先生の授業→話が自分の世界でして、時間内で終わらなそう。中学でやったこと⇒ジェンダーとは何か?・身近にあるジェンダー・仕事におけるジェンダー・なぜ引いたか⇒先生が、きられてた先生だったから。⇒「家庭科」なのにジェンダーばかりで、あきていた。</p>
<p>地理の授業や、合宿でのキャリアガイダンスでジェンダーに興味を持ち、これしかない!!というくらい勢いで選びました。</p>	<p>男性、女性のあり方の歴史、また国ごとの状況に興味があるので、そのあたりを考えていきたいです。特に国・地域別の男性女性については、私は今まで男女差別のようなものはほとんど感じる事が無かったので、とても不思議に思いました。</p>	<p>ない</p>	
<p>あみだくじで当たりました。実用文書地理がやりたかったけれど、フランス語にのめり込めるため、将来の役に立つと思うから。</p>	<p>自分のすぐく身近にあるジェンダー(例えば、なんで保育士に男の人が少ないのか。ジェンダーの力が働いているのは…?)と世界の女性に対してのジェンダーについて。国際協力は特にアフガニスタンなどの発展途上国について学びたい。</p>	<p>ある</p>	<p>中学のときは…あまり国際的なことはやらなかったけど、中学のとき初めて「ジェンダー」のことについて知ったとき、「そんなこと当たり前じゃん!」と思ってしまっ、嫌いなった。今まで生活の中でく「あたり前」のことでやってきたこと家事、男はおもいものをもつ、赤ちゃんの服の色、男女の雇用…etc.を今さら見つめなおすなんて…と思ったから「ジェンダー」と聞くと「え…」ってかんじになっちゃいます。でも今でももう少しやってみようかな…と思うようになりました。</p>
<p>直接的な理由は第1希望の異文化理解には入れなかった、ということですが、しかし、季休中に関連関係の女性職員さんと話す機会があり彼女自身も素晴らしい人で、仕事でジェンダーや人権問題を扱っていると聞き、また改めて興味を持ったことも理由として挙げられる。</p>	<p>まだあまりジェンダーということに対しての知識が少ないので、怪しいので今までのジェンダーというものの歴史について教えて頂きたい。そして現在問題とされていること、私達にもできることについて講義やディスカッションなどほしい。</p>	<p>ある</p>	<p>大学の先生はちよつと人をバカにしてしまうのかなあ、というイメージを持っています。今までは阪大の先生や緒方さんの講義(アファに)を聞きました。</p>
<p>地理やHRでジェンダーについて学習して強い印象を受けたからです。世界には、私には想像もつかなかった男女差別があることを知って、驚きと怒りを感じました。また、国際協力についても詳しく知りたいと思ったからです。</p>	<p>世界のジェンダーを知ることで、日本の日常生活の中でもまだジェンダーがあると思うので、解決策を考えたいです。またジェンダーを通して外国の文化についても触れたいです。軌の上だけではなく、体験授業もやってほしいです。</p>	<p>ある</p>	<p>大学の講義は聞いていいイメージでしたが、高校で実際に受けてみると、とても楽しい、分かりやすかったです。</p>
<p>地理の授業で国際協力について学び、初めて、「興味あるからもっと学びたい」と思った。そこがこの講義があった!</p>	<p>私は国際協力の方に興味があるので、地理の授業で扱っていた新聞のコピーなどを選んで、もっともっと深く実際に携わってはいないけれど、「協力すべき国」についてその現場の実態など知り、学ぶことをしたい。</p>	<p>ある</p>	<p>大学の先生に対するイメージ 冷たそう…</p>
<p>高校に入って初めて「ジェンダー」という言葉を知り、語りを聞いてうちに興味を持ちました。日本にすつという私にとって、外国にいる女性のおかれている立場を知らずにいたため、様々な立場にあると知り、驚くとともに、これからはもっと知っておかなければならないと思い選択しました。</p>	<p>将来社会にでてくために、女性が現在おかれている立場について知りたいたいです。様々な国の女性の生活していく中での苦勞や差別をなくしていくにはどうすればよいのかなどをきちんとした知識を持ってから考えたいです。</p>	<p>ある</p>	<p>大学の先生の授業を聞いたことがあったが、時間短すぎた(短かすぎた)が、すぐテンポが速く、幅広い範囲の語について話してくださったため、内容を理解することが少し難しかったです。</p>
<p>あみだくじで、4回目にあみだで落ちて、よく考えてジェンダーでもいいかなあと思ってまた、ジェンダー希望の中であみだをやったらジェンダーになった。</p>	<p>私たちの身の周りで、ジェンダーがもたらすどんな問題がおきているのかについて知りたいたい。国際協力とはどのような関係性があるのか? ジェンダーは一人一人の意識の問題であると思うが、ジェンダーは社会問題なのか?人はジェンダーをどのような存在として見ているのかを知りたい。</p>	<p>ある</p>	<p>・結局私は多少のジェンダーはあってもいいと思った。別に授業が悪かったわけではないが、なんとなくジェンダーという言葉はもう耳にはたこいがかんじでうんざり感があった。 ・世の中の人々はジェンダーについて気にしすぎていると思った。 例えはスチーフーズなどの呼び名をも変えるべきだといふ考えなど。 ・大学の先生に対するイメージ⇒年をとっている ねむく話しか方 黒板に何も書いてくれない</p>

資料4-2 2003年度 最終回授業感想 (2年生)

2004「国際協力とジェンダー」1年間の授業を振り返って				(6)この授業の1年間の満足度はどのくらいですか？(非常に不満足～非常に満足)
(1)ジェンダーについての考え方で何か以前と変わったところがありますか？	(2)他の授業と比べて、「国際協力とジェンダー」の授業の、よかったと思われる点は何がありましたか？	(3)他の授業と比べて、「国際協力とジェンダー」の授業の、悪かったと思われる点は何がありましたか？	(4)この授業を通して何か得ることができたとすればそれは何ですか？	
レポートを倉(たか)に色々考えたから、授業ではあまり変わらなかったことも、自分のジェンダーに対する考えは深まった。	様々な分野からの先生のお話を聞くことができ、専門的なお話もあれば知識を広げ、より自分の考えを深めることができたと思う。	もっと積極的に意見を言い合える雰囲気を作してほしい。	世界の国々の情勢、女性の現状について知ることができた。「私たちにできること」についての具体的な話をたくさん聞くことができ、国際協力への意識が高まった(気がした)。	3
ジェンダーについて考えるとき、女性のことばかり(もしくは男性と比べて)を考えていたが、女性とより関わる社会のことなどもっと考える必要があるのだな、と思った。	いろいろな考えを持った先生方の話を聞いた点。 「考える」ということを学べた点。	レポートが大変だった…	今まであまり他の国のことを考えていなかったのに、ほかの国のことについていろいろ知ることができた。自分で様々なことについて考える、ということ。	4
ジェンダーと国際協力の関係を、それまではあまり考えたことがなかったが、「女性のニーズに応えるための国際協力」という点から、国際協力を見ることができたので、視野が広がったと思う。	話し合いで他の人の意見を聞くことができたこと。 様々な分野で活躍している方々の話を聞いたこと。自分たちが考えている問題を身近に感じることができた。	国際協力を考える時、いろいろな知識が必要になるので、それが不足していると、考える材料がなく、自分の意見を言えないことがあった。	国際協力の楽しさを改めて実感した。(文化は尊重していくべきだが、それがジェンダーの問題と関わっていく時、どうするべきか等)「教育が必要」と一口に言っても、その国の政府が国民の教育にどれほど関心をもっているか、また国民の教育を受け入れられる生活の現状が整っているかなど、多くの立場から考える必要があることも、分かった。	4
ジェンダーをな(な)くても良いと思う人々もいるので、ジェンダーの全てが悪いとは思わなくなった。	考える機会が多かったこと。 世界の現状について以前よりも考えるようになり、新たに得た知識も多かったこと。	レポートが多いこと… 意見が出ない日もあったこと。	世界が持っている課題に目をむける習慣がついたこと。	4
今まで特に気にしていなかったが、実は社会的な性差、つまりジェンダーが至るところに存在していて、それが様々な障害を生んでいることが分かった。	様々な人の講演を聞くことができたこと。	大変な時期にレポート提出があること。	人の話を積極的に聴けば聞くほど、自分の視野は広がるものだった。	4
今までは身の回りのジェンダーばかりを考えていた。それはもちろん大切なことだけど、国際協力をすすめる上での相互のつながりが非常に深いのだと思った。「ジェンダー」が関わっている領域が広がった気がする。	これからのグローバルな世界を生きてゆく私たちに必要な、国際協力の問題を扱うことができた。そしてその問題の複雑さやうらめさされたのも良い経験。	授業スタイルが…、もっと良い雰囲気がある…	国際協力が難しい、と分かった。ナメではないけれど、という教訓「素直」の壁は高い	3
様々なところにジェンダーは関わっているのだ、と思った。国際協力とも関わってくることに驚いた。	大学の先生などに様々なテーマをお話を聞くことができた点。	他の授業でもそうかもしれないが、授業に対して受動的だった点。	ジェンダーや国際協力についていろいろと考えることで、少し物事をじっくり考えることができるようになったかな、と思う。	4
ジェンダーを、今までより深く考えるようになった。日常生活の中でのた(た)さんのジェンダーに気づくようになった。	普通の科目では扱わないような内容の社会問題について考えることができたこと。	たくさん、レポートがあったこと。 授業に対して受身になってしまったこと。	世界の様々な問題を知ること、どうすればいいのか考える力ジェンダーの視点の大切さ	4
いろいろな儀式や組織で制度を知ったし、電車の中で人を見る目まで変わりましたが、男女について、すごく考える時間も増え、無意識に考えていたりします。問題にもならないと思うこと、しかし、「ジェンダー」があったとしても、問題にならない所もあるから、「ジェンダー」全てが悪いとは言えない。	悪い先生や先輩の話を聞いたことで、知識が爆発的に増えたのも良かったです。	どうかが第1志望ではなくてノリ気ではなかった1学期とかおいてレポートのたびに「そーそー」思っていました。ずいぶんがくゆうが多すぎました自分！！	よく考えることが出来るようになった。1つのことを多方面から見られるようになった。	4
国や文化によって意識がちがう。	ただ授業を聞いて覚えるのではなく、知ったことから考える時間が多くなったこと。リアルタイムの学習ができたこと。	とくにありません。	新聞やニュースなどからこの授業で扱った内容や関する内容に自主的に目を通すようになった。情報から疑問に思ったり考えたりする。またしようとするようになった。	4
ジェンダーというのは、女が身分が低くて、いつもいやな思いをしていると思っていたが、サモアなど平等な身分であったり、素直に当然のことと認めている場合もあり、複雑な問題だと思ふようになった。	多くの先生方の話を聞くことができて良かった。知らないことを多く学べた。考え方が少し広がった。	一方的に話を聞くことばかりだった点。もっと話し合えたら良かった。	物事を深く考えるようになった。世界のことを今までより考えるようになった。	4

よく目をこらすと至る所にジェンダーの問題が見られる。 今まで全く気にしなかったことも「そういえばこれもあれも…」というように、 でも一人一人の感じることもちがうし、問題を解決するのはやはりむずかしい。	他の授業?「深く考える」という点では世界史同様勉強になった。	ジェンダーについてワオワオ首で楽しく議論したかった。	「考えること」ですかね。 考えすぎてわからなくなってしまいました。	4
今の時代、男女平等なんて当然だと思っていたのに、私たち同年代の 男性には、奥さんには家についてほしいとか考えてると知ってがっかりした。 私にとっては有り得ない話。	色々な先生のお話を聞けたこと、教室で内々に話し合っているだけでは絶対に分からない知識を 得られた。	悪くはないけど…レポートがつかかった。	自分を見つめ直すこと。 自分に出来ることを考え直すこと。	4
今までではたの男女差別という意識が強かったけれど、 ジェンダーをなくすことによって世の中はどう変化するかわかった。	自分の興味のあることについて知り、考えることができた。根本的に他の授業とは違うから 比べられないけれど、専門家の方々の話を聴くことができたのはよかった。	専門家のお話を聴くことができたのはよかったけれど、 もっとみんなでディスカッションしたかった。 →この前のグループみたいに。	この方面についての知識を得ることができたし、 今までにない考えや真実みたいなものを知ることができた。 授業をとらないと絶対分からなかったと思う。	4
はじめはジェンダーについての知識がまったくなかったので、 この1年で知る事ができた。	自分で考えて、意見をまとめることができるようになった。 大学の先生の講義など、沢山あったので様々な人の意見・考えが 聞けてよかった。	(空白)	みんなで考えて意見を言い合うことができるようになった。	4
漠然としていたこの言葉の深さを感じた。	たくさん人のスピーチ(お招きした人々)が聞けた。	特になし	将来「国際協力」についてもっと深く考え、 携わっていく職業につきたいと 思うようになった。(夢決心!?)	4
ジェンダーはその国その国で違って(バールをかぶる、かぶらない、 性器切除)自分の国では考えられないことも他国では行なわれていて、 自分が「ジェンダーだ!!」と思っていることを相手におしつけては いけないと分かった。そして気を付けようと思えるようになった。	ただ聞いているだけでなく資料をみて、意見を交換できたところ。 自分とは違う考えを知ることができたから。	この前のようなグループ学習をもっとしたかった。(現文みたい)	自分たちの文化や考え方をおしつけないといけない。 相手の望んでいることをしてあげるといいことである。	3
少しずつだが女性の地位は向上しつつある。	日頃ニュースを見て疑問に思っていることや、意見を発表し、いろいろな話を聞くことができた点。 今まで何気なく聞き流していた世界での仕事への関心がいつそう強まったこと	(空白)	自分の考えや意見を言葉にして相手に伝えようとする事ができた。 自分でレポートなどを進めて興味のあることについて 詳しく調べることができたこと。	4
以前は、日本の女性はこれからどう生きるべきか、ということを考えていた けれど、ジェンダーは世界中にあって、それが国際的な問題になっていると 知った。	テストや受験には出ないけれど、今の世界のことを色々な視点で見ることができて、これか生きていく 上で必要なことを学べたと思う。	もっと色々な話し合いをみんなでしたかった。 これからの日本女性としての行き方も考え合えたかった。	今の世界の状況について知れた。	3

資料5 2003年度 授業感想の具体例(1年生)

授業テーマ「遺伝学からみるジェンダー」 授業を受けてみて、どのようなことがわかりましたか。	満足度(1~5)	なぜ、満足だ(もしくは満足でない)と思いましたか？	その他(なんでも)
前々から、コックさんや音楽化など、何かの専門職の人達には男性が多いと感じていましたが、それは男性と女性の脳のつくりの違いが関係していることが分かり、納得ができました。	4	男性と女性では、やはりどうしてもある作業への向き、不向きがあるのは事実だと思っていました。もちろんそのような固定観念に縛られてばかりではいけないけれど、何でもかんでも同じにするのではなく、その違いを正しく理解し、十分に活かせる社会にしていけることが大切だという考えにとっても共感できたからです。	
<ul style="list-style-type: none"> ・男性と女性では脳の特徴に違いがあり、それによって行動にも違いがあらわれているということ。 ・同性愛の原因に、遺伝子が関係している可能性があると考えられているということ。 ・男女の性質の違いは生物学的に説明できるものなので、その違いを活かしてそれぞれ得意なことをやっていけばよいのではないかということ。 	4	先生が最後にご自分の意見として述べられたことは私もずっと思ってきたことだったので、今までは確信が持てず、なかなか人に自分の考えを伝えることができなくて、もどかしい思いをしていました。しかし、先生が生物学的な視点から男女の違いを説明して下さい、男女がそれぞれできることをすればいいのだと納得できたので、今回の授業を受けてとてもよかったです。	男女間で社会的地位の差や差別はなくすべきだと思いますが、男女の役割を無理やり同じにしようとするのはおかしいと思います。逆に、男性の領域、女性の領域というように範囲を限定するの、個人の能力を活かす妨げになります。やりたいと思ったときには性別関係なく飛び込めるような、そんな環境をつくらなくてははいけないと思います。なかなか難しいことで、男女がお互いを心から大切に思えるようにならないと、そんな社会はできないと思います。
男性と女性とで脳の構造や機能にこんなにも明らかな違いがあるとは思わなかったのでびっくりした。今までの話し合いでは、男の子遊びと女の子遊びがあるのは、社会がそう分けて、またそうするべきだと思われてるからだ。みたいなカンジで、それがさも問題だみたいな扱いをされてきたけど、サルの行動から遊戯のパターンの性差は、生後の社会的影響ではなくて、ホルモンによるということで、なんだよってカンジだった。だったら今までのは何？みたいな。	4	私的には今までのよりもずっと先生の、男女間には体や脳やホルモンなど、いろいろな違いがあるから、それを無理に画一化しようとするのじゃなく、それぞれの違いを生かせる社会にするべきだ！みたいな話(ずいぶん前の話なので忘れてしまったがたしかこんな話だった気がする)の方がよっぽど普通に納得できたと、すんなり受け入れられた。	ゲイが脳の構造に特徴的なもっていたり、また「ゲイ遺伝子」があるかもしれないという話は超おどろきだった。

資料 6 2003年度 授業感想の具体例 (2年生)

授業テーマ「国際協力とジェンダー-サマオを事例に」 授業を受けてみて、どのようなことがわかったか	満足度(1～5)なぜ、満足(または満足でない)と思いましたか?	その他(なんでも)
サマオという国がとても興味深い独自の文化を持っているということ。 サマオにおいては男女差別というのは今までやってきた他の国 (アフガニスタンなどの中東)に比べてそんなにない気がした。	3 地理の授業みたいだった。 短い時間でサマオについてかなり細かいことも知ることができた。	
「フィアサマオ」の社会システム 個人よりも「アイガ」を優先し、個人は定められた位置で、アイガへの責任を果たす。年上を尊重するので、例えば食事は 親が食べたと、子どもが食べる。仕事は重く、汚い仕事を男性、軽くてきれいな仕事を女性がうけ持つ。 ・サマオでは就学率に男女差はない。しかし政治面では女性に不利な点がある。 ・ソーンガプログラムは実際のニーズには対応できているが、戦略的ニーズには対応できていない。	4 サマオについて何も知らなかったし、興味を持ったことがなかったから、 フィアサマオの話などがとても興味深かったから。 (姉妹の方が兄弟より上、とかよそから来た妻は認めてもらえず、罵声がせまい) 何かにつけて位置を覚える、という話もおもしろかった。	
・サマオでは、男女間で、離字率にそれほど大きな差はない。 また、男性が重い、重労働をするのに対して、女性が軽い、きれいな仕事をするという習慣がある。 「国際協力」を運営していくためには、男の人が多いため、女性に必要なこと。 女性が求めているものが提供されてしまう可能性がある。 女性のニーズに応えるためにも、国際協力にジェンダーの視点は必要。	4 今まで名前しか知らなかったサマオについて、そこで人々の習慣、考え方を ジェンダーという視点で考えながら知ることができたから。	
「人間の基本的ニーズ」は男性の方が優遇されがちである。 ・その中でも「戦略的ニーズ」のジェンダーにおける点では、援助する側ではなく、 援助される側が決めるべきである。	5 先生のお話が面白く、内容もジェンダーのことをよく考えさせられたから。サマオでは肉体的労働が主であり、 コンピューターなど主とした先進国の労働とは違うのでジェンダーの差が少ないのもわかる気がする。 ジェンダーは育つ環境によって形成されるから、援助する側が現地の人に強制はできないということを考えて考えさせられ、 援助の難しさ(どこまでふめこめるか)を実感した。まあ私はどの人も幸せに暮らせればそれでいいと思う。	
今回、倉光先生にサマオについての講義を聴いて、驚きの連続だった。 まず、年長の者が徹底的に優先される「マタ制度」だ。 大人の預り物の食べ物を子供が食べるなんて、一家団圓を重視する私達には想像 できないし、核大家族によって形成されている、というの今の日本とは対照的である。 このように年齢による階層は厳しい一方、他の発展途上国と違って男女差別が少ないことも興味深い。 そして、サマオの女性たちの行動力にも目を覚ます。 テラーになるために自ら学び、収入を得ようと努力している。 でも、彼女たちがもう活動に動けるのも、それを応援してくれる夫や家族の存在があるからなのだと思う。	5 「サマオ」なんて聞いたこともない小さな島で、相互補完性という ジェンダー関係が築かれていたことを知って、感動を覚えたから。 私達が知らないだけで、世界には様々なジェンダー関係を持っている国や民族が いるんだなあ...と改めて感じた。 サマオでは女性の政治参加が困難なのに、本当に「相互補完性」と言えるのか? という疑問もあるかもしれないが、ジェンダー関係(もちろんそれ以外の問題も) の是非は、その土地の人々が決めるべきだと思うから。 それを私達外部の人間がとやかく口を出す必要はないと思う。	サマオの周辺には、たくさん島があるが、 それぞれがサマオのように全く異なる 社会システムがあるのか?
・生存維持経済をしているといっても、サマオの女性は男性に劣らない教育水準である。 ・サマオでは、ソーンガがよい例になる(衣服が特別な意味を持っている!?) ・実際のニーズ、戦略的ニーズについて	3 「途上国」の特に入っている中でこんなに男女間の教育水準、専門職就業率に 大差がない国を知ったのは初めてで、とても興味深かった。 最後の戦略的ニーズの必要性を見極める人は誰か?の問いについて、私は先生のように、はっきりと 「それはサマオ人女性である!」とは断言できないような気がした。政治に女性が参加できないのは...どうなのだろうか。	同じ途上国といっても、アフガニスタンの女性とこんなにも違うのは 宗教が違うからなのだろう(他にもあるのかもしれないけど...)。 そう考えると「宗教」が思った以上に強大な力を持っているんだと思う。 それと同時にすごく恐ろしいものにも思える。
・サマオは主に生存維持経済で、人々はお金をかせぐために働くというより、毎日食べていくために働く。 ・重くて汚い仕事を男性が、軽くてきれいな仕事を女性が行う。 離字率も男女差がなく、女性でも就職で不利になることはないが、女性はあまりマタイにならないので政治領域への進出は難しい。 ・サマオでは制度の文化があるので、テラーさんが必要=ソーンガプログラム。 ・ソーンガプログラムで収入を得ることができれば実際のニーズはある程度は達成されるが、戦略的ニーズは欠如している。 ソーンガプログラムは、その点では、批判されている。	5 プリントがわかりやすくて(まとまっていたので)話のみ込みやすかったし、 サマオという国について興味を持ったから。 話の方も面白かった。	サマオの人々の「男性には男性の役割、女性には女性の役割があって、双方がいてこそ 社会が成り立つ。だから、どっちが上も下もない。」という考えも、 「サマオの人々は知らないだけだ。」という考えも、どちらも理解できる気がした。 私は、政治に参加できないのに相互補完的ということには 疑問を感じるが、無理に人々の考え方を責めていく 必要はないのではないかな、と思った。
今まで、サマオ自体私は知らなかったから、聞いたことすべてがわかったことなのですが、性別で 差別されるということがほとんどなく、家族の中の位置が、自分の地位になるというのが、とても驚きました。 制度好きというのおもしろかった。	5 「話しかけすぎ」はききまわして聞きとりやすかったから。 プリントが分かりやすかったから。 今まで知らなかったことをたくさん知ることができたから。	
サマオには男女間にどちらが劣っているという意識はない、お互いに必要な存在。 ソーンガを習得理由: 家計との関わり、家庭内役割との関係 職種の技術が身に付く=将来テラーになって稼げる ソーンガプログラムに参加した女性の変化 自分自身に対する新たな自身の芽生え サマオでは、人の役割がはっきりと決まっている	5 先生のキャラがいい。	サマオは女性が強いのでは...と思う。

